



大澤知事に次年度予算への提言書を提出

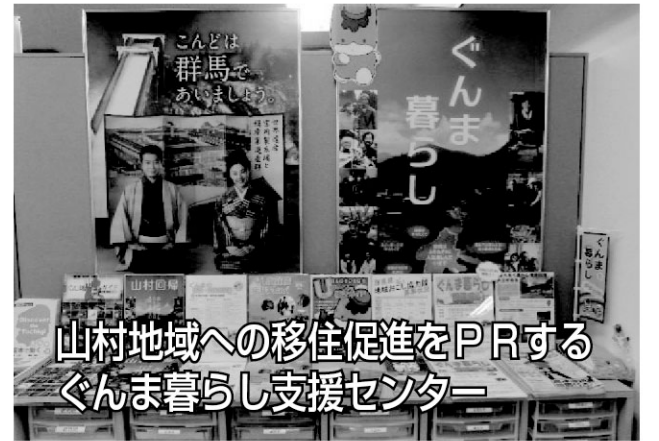
リベラル群馬が提言してきた、「生活者目線」に立った施策が盛り込まれていることは率直に評価。いいものはいい。おかしいものはおかしい。堂々と指摘する、真の意味での「是々非々」がリベラル群馬の立場。

### リベラル群馬目線から見た、予算案の評価ポイント

- 1.格差拡大による生活困窮者対策に着手**
  - 相談支援員の拡充(7名→10名)
  - 生活困窮家庭の子どもへの学習支援事業を新設。
- 2.障がい者雇用率:全国ワースト2脱却に向けた対策強化**
  - 特別支援学校を活用した週末活動支援
- 3.厳しい経営環境にある地場中小企業への支援強化**
  - 群馬県中小企業支援センターの設置
  - 先端ものづくり産業支援技術力強化事業
- 4.山村地域の支援**
  - 都内で山村地域の移住促進をPRする「ぐんま暮らし支援センター」の体制強化
- 5.行財政運営の効率化**
  - 県合同庁舎の機能を集約(伊勢崎など)
  - 伸び続けてきた県債残高を減少に転換

リベラル群馬は、昨年12月、大澤知事に対し次年度予算への提言書を提出しました。その中で、「子ども」「子育て世代」「障がい者」「地場中小企業」など、政治に声が届きにくい立場に寄り添う施策の充実を提言しています。また同時に、本県の「山村地域」「自然環境」「健全な財政」を守ることに、将来世代に持続可能な郷土を受け継ぐことを提言しています。そのような視点から次年度予算を検証すると、提言内容が十分とは言えないまでも一定の前進を図られていることは率直に評価できるものです。

特に写真の「ぐんま暮らし支援センター」は、後藤が8年前から提言してきた施策であり、昨年度から体制整備が図られていることには感慨深いものがあります。今後も真に「是々非々」の立場から積極的な提言を行っていく所存です。



山村地域への移住促進をPRするぐんま暮らし支援センター



上田市



三島市

## 後藤のこだわりテーマ 人づくりは「食」から

文教警察常任委員として1年間、後藤が研究を深めてきたテーマが「食」。米と魚主体の給食で、「食」から荒れていた真田中学校を立ち直らせたという、元長野県上田市教育委員長の大家貢先生の講演を聞き、目から鱗の思いでした。早速、上田市をはじめ、大塚先生のアドバイスにより学校のみならず地域ぐるみで「食」の改善に取り組んでいる静岡県三島市、福井県小浜市の取り組みを調査。



小浜市

3市に共通しているのは、ほぼ全日米飯給食という事。米飯給食により、肥満などの生活習慣病の改善や日本食文化への関心が深まるなどの効果だけでなく、地産地消の推進にも繋がります。特に上田市真田中学校では、大家先生が校長時代、脳に良い作用をもたらすGABAという栄養素に注目し、豊富に含む発芽玄米入り米飯を今でもほぼ全日提供する徹底ぶりです。一方、群馬県は米飯給食が平均で週3日。見習う点は多そうです。

また、子どもの食育を起点に、親や地域の大人も巻き込み、市を挙げて食育に取り組んでいるのも共通の特徴です。小浜市は「食のまちづくり」を掲げ、市を挙げて地域の食資源を活かした活性化策を進めています。群馬県も農業県として豊富な地域資源を活かした「食の人づくり」を進めるべきであり、今後も研究を深め提言していく所存です。



中川公民館東側の交差点に押ボタン式信号を設置



井野川サイクリングロード中川橋に押ボタン式信号を設置

## 地域活動ミニ報告 中川地区

地域の声と共に、通学児童や高齢者の安全対策を進めました。